

わたしたちのすべての奉仕は神によって発起される必要がある

聖書：民 18:1. ローマ 11:36. サムエル下 7:1-3, 5, 11-14 前半.

ヨブ 38:2. 42:6. 使徒 22:8, 10

- I. 召会におけるわたしたちの働きと奉仕はすべて、神によって発起されなければならない、神の願いにしたがっていなければなりません。そうでなければ、わたしたちは神に仕えることにおいて聖なる所に関する罪過を犯すでしょう——民 18:1. ローマ 11:36 :
- A. 人によって発起されたり、開始されたりするものは何であれ、それがどれだけ神のためであるとしても、宗教の活動であり、キリストの臨在がありません。
- B. 人は神の思想を持っておらず、神に仕える心を持っていないかもしれませんが、神は人の所に来て、人に感覚を与え、人に触れ、神ご自身を人に啓示し、人に命令し、人を召し、人を導きます。それによって人は神からのものを受け、行動を起こさざるを得なくなります——エレミヤ 1:4-10, 17-19. ダニエル 11:32。
- II. アベルは、神の啓示にしたがって、信仰によって犠牲をささげました。彼は、神の言葉に応答して、犠牲をささげました——ヘブル 11:4. 創 3:21. 4:1-5. ローマ 10:17 :
- A. アダムの墮落の後、神は犠牲の血を流すことを通して人に贖いを示しました。アベルはこのことを聞いて、見て、理解したので、神の指示と定めにしたがって犠牲をささげました——創 3:21. ヘブル 9:22。
- B. カインは自分自身の意志と意見にしたがって、自分自身から神に仕えました。彼は土地の実りを神にささげました。このささげることは完全に宗教の活動でした——創 4:3。
- C. 宗教の活動は、神の啓示がなく、神の命令がなく、神の導きがない奉仕や礼拝です。神に仕える者の活動は、絶対に人から出たものではなく、神からでたものでなければなりません。
- III. ノアは神の命令にしたがって神に仕えました。箱舟の寸法や箱舟を建造する方法は、ノアの創造にしたがっていたのではなく、神の決定にしたがっていました——創 6:14-7:5. ヘブル 11:7。
- IV. アブラハムは、神の現れにしたがって神に仕えました——使徒 7:2-4. 創 12:1-4, 7-8. 13:14-18. 15:1. ヘブル 11:8-10。
- V. モーセは、神の指示にしたがって神に仕え、イスラエルの子たちを救い出し、神の型にしたがって幕屋を建造しました——出 3:10, 14-15. 25:9, 40. 40:16-17, 34-35. 使徒 7:44. ヘブル 8:5。
- VI. ダビデは神を畏れ、神と協力し、神に働いていただきました——使徒 13:36 前半 :
- A. ダビデは熱心に神のために宮を建てようとしたましたが（サムエル下 7:1-3）、神はダビデの好意を拒絶しました。神は預言者ナタンをダビデの所に遣わして、次のように尋ねさせました、「あなたはわたしのために、わたしが住む家を建てようとするのか？」——5 節。
- B. 神に仕えようとするわたしたちの心は受け入れられますが、わたしたちが神のため

- に何かをしようと決定することは受け入れられません。神は言いました、「あなたは……?」。神はわたしたちが彼ご自身のために何かを決定することを欲しません。
- C. わたしたちは神を愛し、彼の命令を待つべきです。わたしたちは神のみこころを尋ね求め、彼の啓示を待つべきです。旧約の奴隷が自分の主人を愛したように、わたしたちも主人の命令を待つことに集中すべきです——出 21:6. II テモテ 2:21 後半。
- D. ダビデは神を畏れていたため、ナタンに反抗せず、やめました。宮の建造をやめるという行動は大きな事柄です。
- E. M. E. バーバー姉妹は言いました、「だれでも神のために働くのをやめることができない人は、神のために働くことができません」。
- F. ダビデがやめたことは、宇宙において二重の証しを打ち立てました。第一に、宇宙におけるすべての働きは、神から出るべきであって、人から出るべきではありません。第二に、重要なのは神が人のために行なうことであって、人が神のために行なうことではありません。
- G. ダビデは神のために宮を建てたかったのですが、神はダビデに家を建てると言われました。その家から王国が出て来ます——サムエル下 7:11-14 前半。
- H. 神がこの言葉をダビデに語った後でさえ、ダビデは二度も失敗しました。建造者としての子と、宮のための敷地はいずれも、ダビデの罪が赦されたことから出て来ました：
1. 第一に、ダビデはウリヤを殺し、彼の妻ベテシバを強奪しました。ダビデは罪を犯した後、子であるソロモンを生み、彼は神の宮の建造者となりました—— 11:2-17, 26-27。
 2. 第二に、彼がイスラエルの子たちの人数を数えたことは、神よりも戦士の数に信頼していたことによる隠れた高ぶりを示しています。ダビデは人々の人数を数えたことのゆえに懲らしめられた後、神によって指示されたように一区画の土地において犠牲をささげました。その土地は後に宮の建造のための敷地となりました—— 24:1-10, 18-25. 歴代上 21:1. 歴代下 3:1。
- I. わたしたちは、神がわたしたちの協力を欲しているということを内側深くで学ばなければなりません。神はわたしたちが彼のために何かを行なうことを必要としません。わたしたちは自分の意見、決定、考えを停止しなければなりません。わたしたちは神に語っていただき、神に介入していただき、神に命令していただく必要があります——マタイ 17:5。

VII. パウロは彼の征服する回心において、彼が見たビジョンにしたがって神に仕えました：

- A. パウロの主に対する最初の質問は、「主よ、あなたはどなたですか?」でした。これはパウロの生活と関係があります。パウロの生活はキリストを知ることの探求でした——使徒 22:8. ペリピ 3:10 前半。
- B. 主に対するパウロの第二の質問は、「主よ、わたしは何をすべきでしょうか?」でした。これはパウロの奉仕と関係があります。パウロの奉仕は純粹に神によって発起されました。この質問をする者は幸いです！——使徒 22:10. ローマ 1:9. II コリント 2:12-14。
- C. わたしたちはみな主に「これがわたしの行なうことです」と告げるのではなく、「わ

たしは何をすべきでしょうか？」と尋ねるべきです。

VIII. わたしたちの奉仕における基本的な原則は、あらゆることが神によって発起されなければならないということです :

- A. 神に仕えるすべての者は、これらの実例から原則を見なければなりません。神の働きは人の協力を必要とするが、それは人の発起を必要としません。わたしたちは保留することなく彼に耳を傾けるべきです。
- B. ヨブ記が啓示しているのは、神の啓示を受ける唯一の前提条件が、わたしたちの語りかけ、わたしたちの意見、わたしたちの見方、わたしたちの自己を停止することであるということです :
 - 1. ヨブ記は、神の助言が人の言葉によって暗くされたと告げています (38:2)。人の意見は、人の言葉の中で表現され、人の言葉は、人の意見を表します。
 - 2. 主は、「だれでもわたしについて来たいなら、自分を否み」と言われました (マタイ 16:24)。ヨブが「わたしは自分を忌み嫌い」(ヨブ 42:6)と言った時、彼は自分の意見、見方、考えを指していました。
- C. 人から出た奉仕には人の天然の享受、好み、味わいがあります。神から出た奉仕は、困難に直面するときでさえ、人に主を礼拝させ、前進させます。神から出た奉仕は、人に心配させたり、争わせたりしません。
- D. わたしたちのすべての奉仕は神によって発起されますが、わたしたちは主の御前で責任を担い、絶対的に忠信であることを学ばなければなりません。わたしたちは主に結合し、主との交わりの中にいることによって、主に依り頼み、奉仕を遂行します—— I コリント 4:1-2. 7:25。
- E. このような奉仕は、キリストのからだを建造して新エルサレムを究極的に完成します。またそれはわたしたちを用意して、永遠において、また永遠にわたって彼に仕えさせます——エペソ 4:11-12. 啓 22:3。